

第2章 中学生調査の分析結果

この第2章では、中学生を対象に行った質問紙調査の調査結果を示し、検討していくことにしたい。その際、男女別に、全体の結果とともに、非行経験の頻度別に分析対象者を分けた結果をみることにする。

中学生の非行経験の概要は前章でみたとおりであるが、各分析対象者の非行経験頻度は以下のように算出した。不良行為10項目については、0＝1回もない、1＝1～2回、2＝何回もある、犯罪行為4項目については、0＝1回もない、2＝したことがある、の要領で得点化し、14項目の合計得点を算出した。この得点は、最小0から最大28の範囲をとるが、分析対象者を、過去1年間にまったく非行経験の全くない者（非行なし群：得点0）、非行経験が少しある者（非行中程度群：得点1～5）、非行経験の多い者（非行頻回群：得点6以上）の3群に分けることにした。各群が分析対象者全体で占める割合は、男子の場合、非行なし群27%（1341人）、非行中程度群49%（2434人）、非行頻回群25%（1239人）で、女子の場合、非行なし群48%（2433人）、非行中程度群40%（2042人）、非行頻回群12%（621人）となっている。したがって、中学生調査の調査結果は、男女別にこの3群を分析軸に用いたものである。なお、以下の示す各図表の結果では、無回答を除いて集計が行われており、そのために分析毎に各群の母数が若干異なっていることに留意されたい。

1 地域との関わり、近所つきあい

中学生本人ならびにその家庭がどの程度地域に根付いているかをみると、まず、表2-1-1は、中学生本人が、現在住んでいるところにいつから住んでいるかを尋ねた結果である。全体でみると、男女とも半数近くが「生まれたときから」と答えており、続いて「3～4歳頃から」が2割弱、「小学校低学年から」が15%となっている。非行の頻度別では、男子で非行経験の多い群ほど、「生まれたときから」と答える者が若干少ない以外は違いが見いだせない。

次に、表2-1-2は、親が隣近所の人とどのようなつきあいをしているかを尋ねた結果である。全体でみると、男女とも、「何でも相談したり、助け合ったりする」が10%、「おたがいの家にあがって話をする」が12～13%、「立ち話程度はするが、深い話はしない」が3割強、「会えば簡単なあいさつをするくらい」が4割、「顔はほとんど知

らないし、言葉をかわすこともない」が4～5%となっている。男女とも、非行の頻度別では親の近所つきあいに違いはみられない。

2 地域の大人の働きかけ

住んでいる地域の大人が青少年の健全育成を図るために積極的に働きかけているのかをみてる。

表2-2-1は、「なぐりあいのけんか」「集団で喫煙」「車に傷をつけようとしている」の三つの場面を想定して、近所の大人の人が中学生本人に注意すると思うか、あるいは警察に連絡すると思うかを尋ねた結果で、「すこしあてはまる」あるいは「よくあてはまる」と答えた者の割合を示してある。まず、中学生本人に注意するかどうかの結果をみると、全体では、あてはまるという回答が「なぐりあいのけんか」で7割前後、「集団で喫煙」で6割前後、「車に傷をつけようとしている」で8割前後となっている。非行の頻度別でみると、男女とも非行経験の多い群ほど、近所の大人の人が中学生に注意すると答える者が少なく、男子の「集団で喫煙」と「車に傷をつけようとしている」を除けば、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の開きがある。また、警察

表2-1-1 現在のところいつから住んでいるか

(%)

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
生まれたときから	47.6	44.0	42.8	44.7	47.5	46.7	46.5	47.1
3～4歳頃から	18.4	20.1	19.0	19.4	17.9	18.1	16.9	17.8
小学校低学年から	14.5	15.0	16.5	15.2	15.3	15.7	14.8	15.4
小学校高学年から	12.7	12.9	12.1	12.7	12.3	12.5	11.9	12.4
中学生になってから	6.9	8.0	9.6	8.1	7.1	7.0	9.8	7.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2-1-2 親と隣近所の付き合い

(%)

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
何でも相談したり、助け合ったりする	9.8	9.9	8.8	9.6	10.7	10.2	7.5	10.1
おたがいの家にあがって話をする	12.6	13.9	13.1	13.4	12.0	12.9	11.2	12.2
立ち話程度はするが、深い話はしない	33.1	31.5	29.9	31.5	36.5	35.7	32.1	35.6
会えば簡単なあいさつをするくらい	39.8	39.6	41.6	40.2	37.8	37.6	43.4	38.4
顔はほとんど知らないし、言葉をかわすこともない	4.8	5.1	6.5	5.4	3.1	3.6	5.8	3.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

に連絡するかどうかの結果をみると、全体では、あてはまるという回答が「なぐりあいのけんか」「集団で喫煙」「車に傷をつけようとしている」のいずれに関しても6～7割となっている。非行の頻度別でみると、「中学生に注意する」と比べて差が小さいが、男女とも非行経験の多い群ほど、近所の大人の方が警察に連絡すると答える者が少なく、男子の「なぐりあいのけんか」と「集団で喫煙」を除けば、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の開きがある。

表2-2-2は、調査対象者が実際に地域で家族以外の大人の人とどのような接触があったかを尋ねた結果で、各項目とも小学4年生から今までの間で「1～2回ある」と「何回もある」の合計%を示してある。

全体の結果をみると、男女で共通して、「道であったとき、声をかけてくれた」を経験した者が8～9割、続いて「良いことをしたのでほめられた」あるいは「言葉づかいや態度が良かったのでほめられた」を経験した者がそれぞれ6～7割、「わからないことやできないことを教えてもらった」を経験した者が約半数、「いっしょに買い物や食事をした」「いっしょに公園などで遊んだ」「いっしょに運動やスポーツをした」の各々を経験した者が3～4割、「困っているときや悩んでいるとき相談に乗ってくれた」あるいは「将来のことについて相談に乗ってくれた」を経験した者が1～2割、「友達にいじめられているときに助けてくれた」を経験した者が1割未満となっている。他の項目については男女で違いがみられ、「人にめいわくをかけることをしたので、注意された」を経験した者は男子の52%、女子の28%、「自分にとって危険な遊びをしていたので、注意された」を経験した者は男子の42%、女子の22%、「言葉づかいや態度が悪かったので、注意された」を経験した者は男子の28%、女子の16%となっている。非行の頻

表2-2-1 非行に対する地域の大人の対応の予測

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
ニ)中学生がなぐりあいのけんかをしていたら、近所の人は注意してやめさせる	68.7	65.5	59.8	65.0	75.6	71.6	62.5	72.4
ホ)中学生がなぐりあいのけんかをしていたら、近所の人は警察に連絡する	61.3	58.0	57.8	58.8	71.4	62.8	58.3	66.4
ヘ)中学生が集団でたむろして、タバコをすっていたら、近所の人は中学生に注意する	57.6	57.4	54.2	56.7	64.5	59.1	52.8	60.9
ト)中学生が集団でたむろして、タバコをすっていたら、近所の人は警察に連絡する	64.6	63.6	61.0	63.2	67.6	64.7	59.2	65.4
チ)中学生が路上に駐車してある車に傷をつけようとしたら、近所の人は中学生に注意する	79.3	78.0	75.0	77.6	83.1	79.0	77.6	80.8
リ)中学生が路上に駐車してある車に傷をつけようとしたら、近所の人は警察に連絡する	68.2	63.9	63.3	64.9	68.7	64.8	61.9	66.3

度別にみると、男女とも違いが出ているところはいずれも、非行経験の多い群ほど、地域の大人から働きかけを受けた者が多くなっている。すなわち、男子では、「友達にいじめられているとき助けてくれた」と「道であったとき、声をかけてくれた」を除いたすべての項目で、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の開きがあり、特に「言葉づかいや態度が悪かったので、注意された」「人にめいわくをかけることをしたので、注意された」「自分にとって危険な遊びをしていたので、注意された」の各々については、非行なし群と非行頻回群との間で20ポイント以上の大きな開きがある。同様に、女子では、「わからないことやできないことを教えてもらった」「友達にいじめられ

表2-2-2 地域内の家族以外の大人との接触

(%)

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ)言葉づかいや態度が悪かったので、注意された	18.3	27.3	40.1	28.0	11.0	17.5	29.2	15.8
ロ)人にめいわくをかけることをしたので、注意された	40.1	52.4	64.3	52.0	21.0	30.5	44.3	27.7
ハ)言葉づかいや態度が良かったので、ほめられた	53.9	59.3	62.5	58.7	61.3	65.6	66.2	63.6
ニ)良いことをしたので、ほめられた	60.4	67.1	69.0	65.8	63.0	68.6	70.1	66.1
ホ)自分にとって危険な遊びをしていたので、注意された	29.0	39.8	58.4	41.5	16.7	24.4	36.1	22.2
ヘ)わからないことやできないことを教えてもらった	43.8	48.8	49.3	47.6	47.8	49.6	47.9	48.5
ト)道であったとき、声をかけてくれた	81.2	84.1	81.0	82.5	91.2	89.6	86.9	90.0
チ)友達にいじめられているとき助けてくれた	7.7	8.7	9.8	8.7	5.3	5.5	7.9	5.7
リ)困っているときや悩んでいるとき相談にのってくれた	14.6	18.8	22.0	18.4	13.0	15.5	20.9	15.0
ヌ)将来のことについて相談にのってくれた	12.5	17.3	20.2	16.7	9.5	13.0	17.1	11.8
ル)いっしょに買い物や食事をした	29.2	38.0	45.1	37.4	34.6	40.1	44.0	37.9
ヲ)いっしょに公園などで遊んだ	27.8	32.9	36.7	32.5	31.5	33.6	37.6	33.1
ワ)いっしょに運動やスポーツをした	37.7	45.7	48.6	44.3	35.7	41.7	39.7	38.6

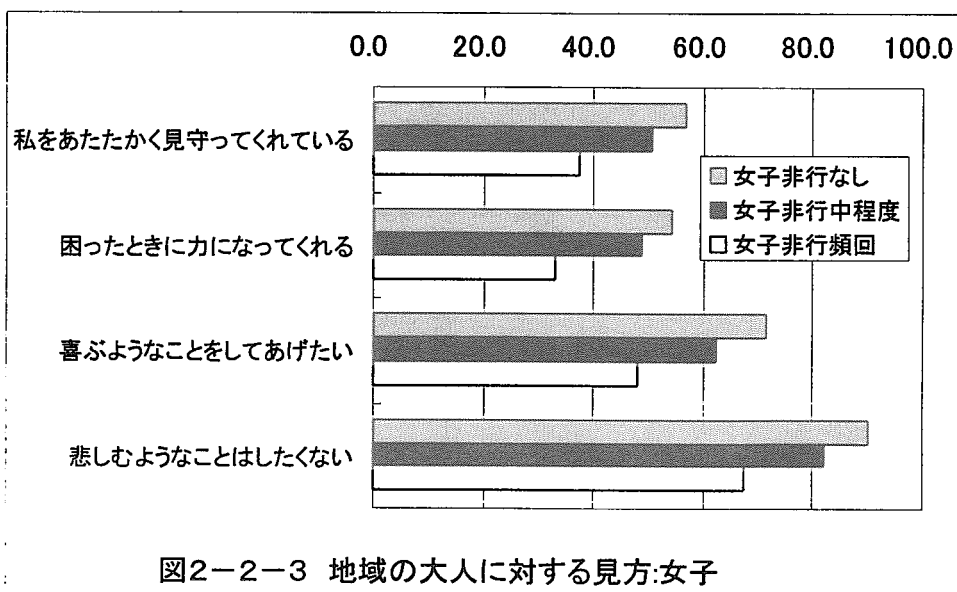
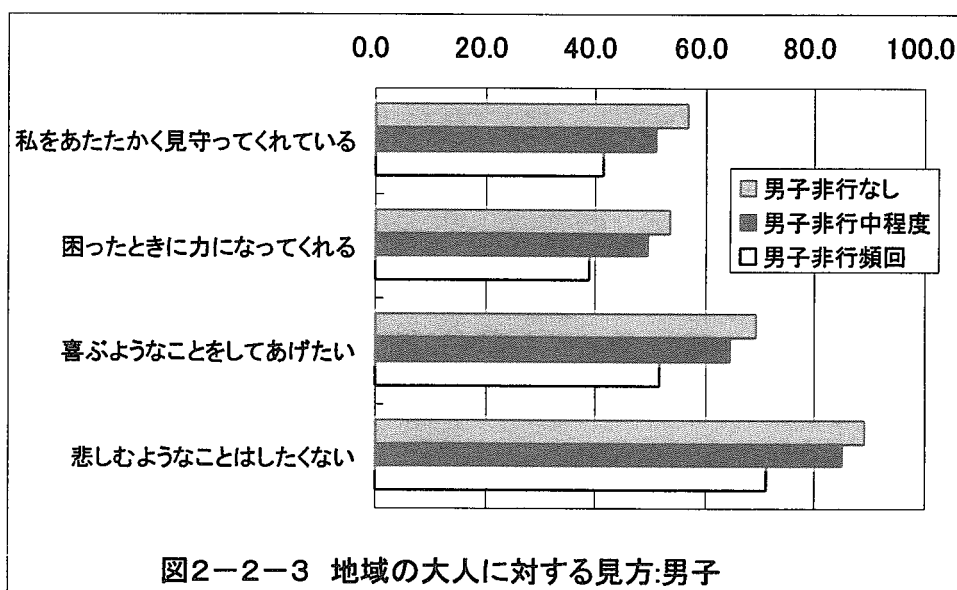
表2-2-3 地域の大人に対する見方

(%)

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ)地域の人は、私をあたたく見守ってくれている	56.8	51.0	41.2	50.1	56.6	50.7	37.4	51.9
ロ)地域の人は、困ったときに力になってくれる	53.3	49.3	38.7	47.8	54.1	48.6	33.1	49.3
ハ)地域の人が喜ぶようなことをしてあげたい	69.1	64.5	51.8	62.6	71.4	62.2	47.9	64.8
ニ)地域の人が悲しむようなことはしたくない	89.2	85.1	71.2	82.8	90.0	82.1	67.6	84.1

ているとき助けてくれた」「道であったとき、声をかけてくれた」「いっしょに運動やスポーツをした」の4項目を除いて、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の開きがあり、特に「言葉づかいや態度が悪かったので、注意された」「人にめいわくをかけることをしたので、注意された」「自分にとって危険な遊びをしていたので、注意された」の各々については、非行なし群と非行頻回群との間で18ポイント以上の大きな開きがある。

さらに、表2-2-3と図2-2-3は、調査対象の中学生が家族以外の地域の大人に対してどのような感情を抱いているか、また地域の大人の働きかけをどう評価しているかを尋ねた結果で、いずれの項目も「まったくそう思う」あるいは「まあそう思う」



と肯定的に回答した者の割合を示してある。全体の結果をみると、男女とも、「地域の人、私をあたたかく見守ってくれる」あるいは「地域の人、困ったときに力になってくれる」と考えている者が約半数、「地域の人が喜ぶようなことをしてあげたい」と考えている者が6割強、「地域の人が悲しむようなことはしたくない」と考えている者が8割強となっている。非行の頻度別にみると、男女とも、非行経験の多い群ほど、各項目に対して肯定的な回答をする者、すなわち地域の大人の働きかけを肯定的にとらえる者や地域の大人と情緒的な結びつきをもつ者が顕著に少なくなっている。男子では、各項目とも、非行なし群と非行頻回群との間で15～18ポイントの開きがあり、女子では、各項目とも、非行なし群と非行頻回群との間で19～24ポイントの開きが生じている。

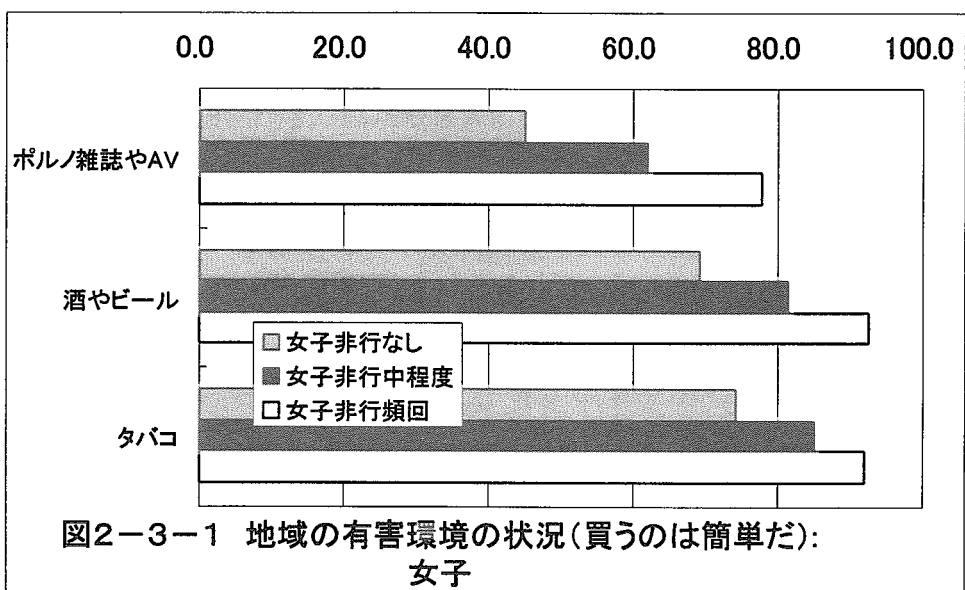
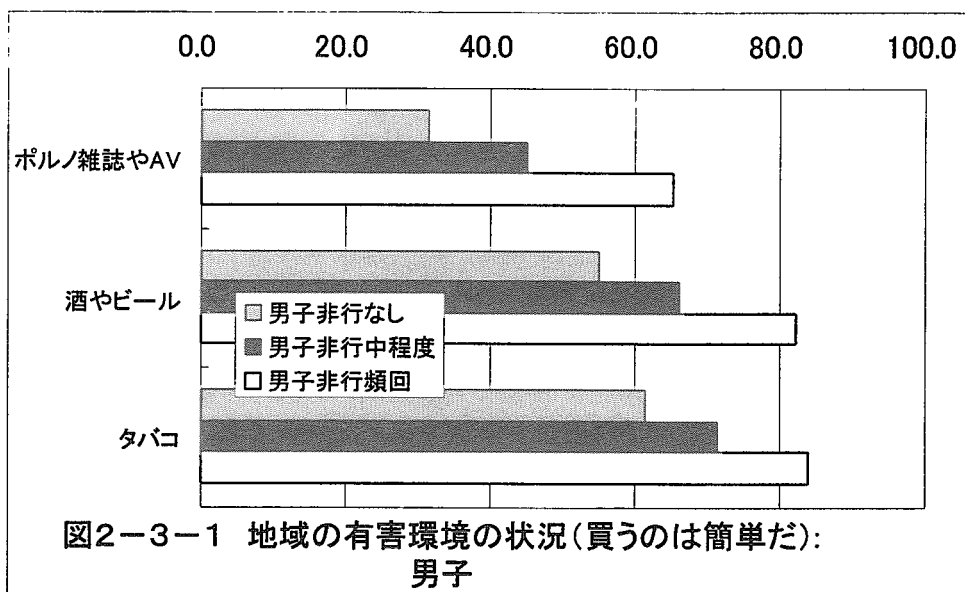
3 地域の有害環境の状況

住んでいる地域でどの程度、ポルノ雑誌や酒、タバコを中学生が入手することが容易であるかの判断を求めた結果が、表2-3-1と図2-3-1である。

表2-3-1と図2-3-1の各項目とも、「すこしあてはまる」あるいは「よくあてはまる」と回答した者の割合を示してある。全体の結果をみると、「中学生がポルノ雑誌やアダルトビデオを買うのは簡単だ」とみている者が男女とも5割前後、「中学生が酒やビールを買うのが簡単だ」あるいは「中学生がタバコを買うのは簡単だ」とみている者が男子で7割前後、女子で8割前後となっている。非行の頻度別に結果をみると、男女とも、非行経験の多い群ほど、住んでいる地域で中学生がポルノ雑誌や酒、タバコを中学生が入手することが容易であるとみる者が顕著に多くなっている。すなわち、男子では、各項目とも、非行なし群と非行頻回群との間で23～34ポイントの開きがあり、女子では、各項目とも、非行なし群と非行頻回群との間で18～33ポイントの開きが生じている。

表2-3-1 地域の有害環境の状況

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ)中学生がポルノ雑誌やアダルトビデオを買うのは簡単だ	31.4	45.0	65.3	46.4	44.9	62.1	77.8	55.9
ロ)中学生が酒やビールを買うのは簡単だ	54.9	66.0	82.1	67.1	69.1	81.3	92.4	76.8
ハ)中学生がタバコを買うのは簡単だ	61.3	71.5	83.8	71.8	74.2	85.1	92.0	80.8



4 社会参加活動への参加状況等

青少年を対象とした地域の12種類の活動(学校のクラブ活動や行事として行われるものを除く)にどのくらい参加したことがあるかを、小学4～6年生の時と中学生になってからのそれぞれについて尋ねた結果が、表2-4-1-1と表2-4-1-2である。いずれの表の各項目とも、「1～2回参加した」と「何回も参加した」の合計%を示してある。

表2-4-1-1(小学4～6年生の時の参加経験)の結果からみていくと、男女共通して、「夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事」の参加者が85%前後、「運動会やマラソン大会などのスポーツ行事」の参加者が6割強、「公園・道路のそうじ、花や

木を植えるなど地域をきれいにする活動」の参加者が5割前後、「登山・ハイキング・キャンプなどの自然にふれる活動」の参加者が4割強、「田植え・いも掘りなどの体験活動」の参加者が3割前後、「竹馬・たこ・わらじ・人形などいろいろな作品を自分で作る活動」の参加者が25%強、「民謡やおどりなどの芸能や文化を学んだり、郷土を知るための活動」「お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動」「交通事故・火事・犯罪などにあわないように注意を呼びかける活動」のそれぞれに対する参加者が15%強、「英会話やパソコン・ワープロなどを学ぶ活動」の参加者が1割強、「柔道・剣道の練習」の参加者が1割未満となっている。なお、「野球・サッカー・水泳・バレーボールなどの練習」については、男女で参加経験のある者の割合に差があり、男子で参加者が57%、女子の参加者が40%となっている。非行の頻度別にみると、男女とも違いが出ているところはいずれも、非行経験の多い群ほど、参加経験のある者が多くなっている。すなわち、男子では、「柔道・剣道の練習」「夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事」「公園・道路のそうじ、花や木を植えるなど地域をきれいにする活動」「お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動」「交通事故・火事・犯罪などにあわないように注意を呼び

表2-4-1-1 地域活動に対する参加：小学4～6年生の時

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ)柔道・剣道の練習	5.4	8.2	10.1	7.9	2.0	4.3	6.4	3.5
ロ)野球・サッカー・水泳・バレーボールなどの練習	47.9	58.0	64.6	56.9	36.3	42.9	47.8	40.3
ハ)運動会やマラソン大会などのスポーツ行事	58.2	63.9	66.4	63.0	59.9	64.1	65.2	62.2
ニ)夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事	81.1	83.0	83.7	82.6	86.6	87.8	90.2	87.5
ホ)登山・ハイキング・キャンプなどの自然にふれる活動	38.2	43.9	47.5	43.3	38.1	43.4	45.1	41.1
ヘ)田植え・いも掘りなどの体験活動	27.1	33.3	36.7	32.5	23.8	29.5	35.7	27.6
ト)公園・道路のそうじ、花や木を植えるなど地域をきれいにする活動	46.7	46.9	44.7	46.3	53.8	55.4	52.2	54.2
チ)民謡やおどりなどの芸能や文化を学んだり、郷土を知るための活動	11.9	15.7	17.9	15.2	15.4	20.5	17.2	17.7
リ)竹馬・たこ・わらじ・人形などいろいろな作品を自分で作る活動	22.5	28.2	29.5	27.0	22.4	27.2	30.8	25.3
ヌ)お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動	12.7	17.1	17.2	15.9	15.4	18.5	22.4	17.5
ル)交通事故・火事・犯罪などにあわないように注意を呼びかける活動	13.6	15.3	17.8	15.5	13.0	16.2	18.4	14.9
ヲ)英会話やパソコン・ワープロなどを学ぶ活動	10.1	14.6	16.3	13.8	7.4	11.5	16.4	10.1

かける活動」を除いた7種類の活動について、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の差がみられる。同様に、女子では、「柔道・剣道の練習」「夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事」「公園・道路のそうじ、花や木を植えるなど地域をきれいにする活動」「民謡やおどりなどの芸能や文化を学んだり、郷土を知るための活動」を除いた8種類の活動について、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の差がみられる。

表2-4-1-2（中学生になってからの参加経験）の結果をみると、全体の傾向として、男女とも、「柔道・剣道の練習」と「英会話やパソコン・ワープロなどを学ぶ活動」を除いた他の活動については、小学4～6年の時と比べて、参加経験者が減少している（具体的な数字は表を参照）。しかしながら、非行の頻度別の結果については、小学4～6年の参加経験と同様の傾向が見いだされ、男女とも違いが出ているところはいずれも、非行経験の多い群ほど、参加経験のある者が多くなっている。すなわち、男子では、「柔道・剣道の練習」「野球・サッカー・水泳・バレーボールなどの練習」「運動会やマラソン大会などのスポーツ行事」「夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事」

表2-4-1-2 地域活動に対する参加：中学生になってから

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ)柔道・剣道の練習	10.7	13.1	18.3	13.8	2.5	5.3	5.5	4.0
ロ)野球・サッカー・水泳・バレーボールなどの練習	26.2	34.7	43.9	34.7	15.0	20.3	27.9	18.7
ハ)運動会やマラソン大会などのスポーツ行事	33.4	39.7	42.7	38.8	28.4	30.9	35.1	30.2
ニ)夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事	53.0	59.2	58.2	57.3	58.2	62.9	64.9	60.9
ホ)登山・ハイキング・キャンプなどの自然にふれる活動	16.7	20.4	23.7	20.2	11.1	13.5	15.1	12.5
ヘ)田植え・いも掘りなどの体験活動	8.7	10.6	11.9	10.4	5.5	6.8	8.4	6.3
ト)公園・道路のそうじ、花や木を植えるなど地域をきれいにする活動	24.0	25.6	22.8	24.5	23.6	24.8	21.9	23.9
チ)民謡やおどりなどの芸能や文化を学んだり、郷土を知るための活動	5.1	7.5	8.6	7.1	5.4	6.6	8.9	6.3
リ)竹馬・たこ・わらじ・人形などいろいろな作品を自分で作る活動	5.7	7.9	9.0	7.6	3.4	4.1	5.6	3.9
ヌ)お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動	8.7	10.8	11.5	10.5	13.3	14.3	15.0	13.9
ル)交通事故・火事・犯罪などにあわなないように注意を呼びかける活動	5.4	7.7	9.3	7.5	4.8	5.6	6.1	5.3
ヲ)英会話やパソコン・ワープロなどを学ぶ活動	11.9	16.1	18.6	15.6	7.6	10.4	17.6	9.9

「登山・ハイキング・キャンプなどの自然にふれる活動」「英会話やパソコン・ワープロなどを学ぶ活動」の6種類の活動については、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の差がみられる。同様に、女子では、「野球・サッカー・水泳・バレーボールなどの練習」「運動会やマラソン大会などのスポーツ行事」「夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事」「英会話やパソコン・ワープロなどを学ぶ活動」の4種類の活動については、非行なし群と非行頻回群との間で5ポイント以上の差がみられる。

さらに、1回でも地域活動に参加したことがある人に対する追加質問として、社会参加活動で経験した事柄を尋ねた結果が表2-4-2で、各項目とも「1~2回ある」あるいは「何回もある」と回答した者の割合を示してある。全体の結果をみると、男女共通して、「親といっしょに参加した」あるいは「他の人と協力して最後までやりとげた」と答えた者は7~8割、「年上の人に面倒を見てもらった」あるいは「年下の人の面倒を見た」と答えた者は5割半ば~6割半ば、「リーダーの役割を果たした」あるいは「自分の考えを積極的に主張した」と答えた者は3割前後となっている。非行の頻度別でみると、男女とも、「親といっしょに参加した」あるいは「他の人と協力して最後までやりとげた」と答えた者は非行経験の多い群ほど少なく、非行なし群と非行頻回群との間で5~12ポイントの差がみられる。一方、「年上の人に面倒を見てもらった」「年下の人の面倒を見た」「リーダーの役割を果たした」「自分の考えを積極的に主張した」の4項目については、男子ではいずれも、非行経験の多い群で経験者の割合が高くなっており、非行なし群と非行頻回群との間で5~13ポイントの差がみられる。同様に、女子では、非行経験の多い群ほど、「リーダーの役割を果たした」あるいは「自分の考えを積極的に主張した」という者が多く、非行なし群と非行頻回群との間で8~9ポイントの差がみられる。

表2-4-2 活動参加時の経験

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ)親といっしょに参加した	72.0	72.0	64.2	70.0	81.2	80.2	69.2	79.3
ロ)年上の人に面倒を見てもらった	57.0	62.8	62.5	61.2	64.1	67.0	67.0	65.7
ハ)年下の人の面倒を見た	49.8	55.3	55.1	53.8	62.6	65.0	62.9	63.6
ニ)リーダーの役割を果たした	26.0	34.4	39.1	33.4	28.0	33.0	36.3	31.1
ホ)自分の考えを積極的に主張した	26.6	33.1	36.5	32.2	24.9	29.5	33.1	27.8
ヘ)他の人と協力して最後までやりとげた	72.3	74.0	67.5	71.9	78.8	77.8	70.9	77.4

次に、表2-4-3は、青少年を対象とした地域活動に今後、積極的に参加したいかどうかを尋ねた結果で、「まったくそう思う」と「まあそう思う」の合計の値を示している。全体で見ると、男女とも45%の者が今後の参加に積極的な姿勢を示している。非行の頻度別で見ると、男女で共通して、非行経験の多い群ほど、今後の参加意欲の高い者が顕著に少なくなっており、非行なし群と非行頻回群との間で16～18ポイントの差がみられる。

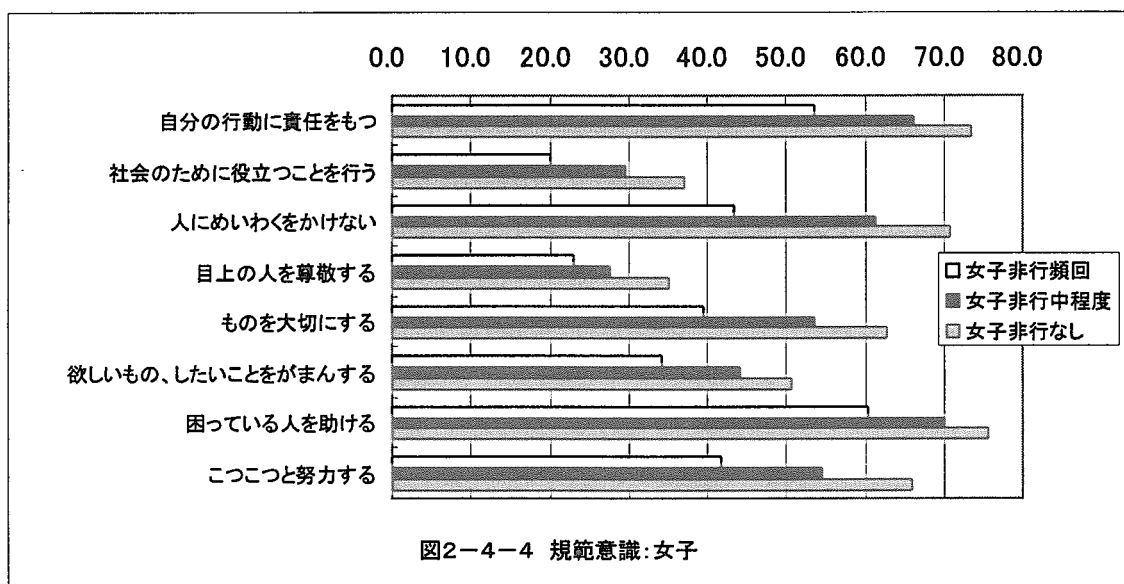
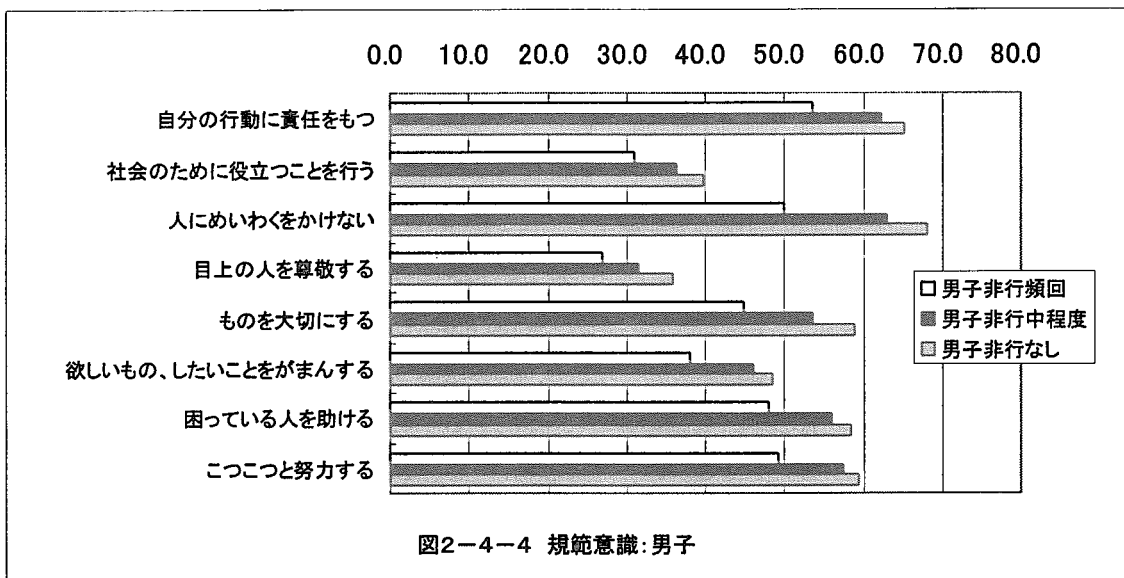
最後に、表2-4-4と図2-4-4は、青少年が社会参加活動に参加することで学ぶことが期待されている規範がどの程度身に付いているかを尋ねた結果で、各項目とも「とても大切」と回答した者の割合を示している。全体の結果をみると、「目上の人（先輩・先生など）を尊敬する」あるいは「社会のために役立つことを行う」をとても大切であるとする者は男女とも3割強で、その他の項目を大切であるとする者は5割前後～7割となっている。非行の頻度別で見ると、すべての項目に関して、男女で共通して、非行経験の多い群ほど、各項目の規範をとても大切であるとする者が少なく、特にこの傾向は女子で顕著となっている。すなわち、男子では、非行なし群と非行頻回群との間で9～18ポイントの差がみられるのに対して、女子では、非行なし群と非行頻回群との間で12～27ポイントの差が生じている。

表2-4-3 地域活動に対する今後の参加希望

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
まったくそう思う・まあそう思う	50.4	46.7	33.9	44.6	50.7	41.5	33.1	44.9

表2-4-4 規範意識

	男子				女子			
	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体	非行なし	非行中程度	非行頻回	全体
イ) 苦手なことでも、こつこつと努力する	59.5	57.4	49.1	55.9	65.9	54.6	41.7	58.4
ロ) 困っている人や体が不自由な人を助ける	58.4	56.0	48.0	54.7	75.5	70.0	60.4	71.5
ハ) 場合によっては、欲しいもの、したいことを辛抱したり、がまんする	48.4	46.2	38.1	44.8	50.8	44.0	34.2	46.0
ニ) ものをそまつにしないで、大切にする	58.9	53.6	44.9	52.9	62.7	53.7	39.4	56.2
ホ) 目上の人を尊敬する	35.8	31.4	26.9	31.4	35.2	27.6	23.0	30.6
ヘ) 人にめいわくをかけない	68.0	63.0	49.8	61.1	70.9	61.2	43.5	63.7
ト) 社会のために役立つことを行う	39.7	36.4	30.9	35.9	37.2	29.6	20.2	32.1
チ) 自分の行動に責任をもつ	65.3	62.2	53.6	60.9	73.4	66.3	53.5	68.1



5 まとめ

この章では中学生を対象に行った質問紙調査の結果をみてきたが、そのうち、非行の頻度別の結果を中心にまとめることにしたい。

まず、中学生本人あるいはその家庭がどの程度地域に根付いているかをみたが、地域に居住している期間や近所つきあいに関しては、非行の頻度による違いは見出せなかった。

次に、地域の大人の働きかけに関しては、非行経験のある者ほど、注意を受けたりほめられたり、一緒に遊んでもらったことがあり、より健全育成を図るための働きかけを実際に受けているにもかかわらず、地域の人々の働きかけを肯定的に受け止めたり、地域の大人に対して情緒的な結びつきを感じている者が少なく、地域の大人の働きかけが非行の抑止要因として十分に機能していないことが窺える。

また、有害環境に関しては、非行経験の多い者ほど、自分が住んでいる地域でポルノ雑誌や酒、タバコを入手することは容易であると答えており、地域の有害環境およびそれに対する地域の大人の許容的な態度が中学生の非行を促進していることが明らかである。

社会参加活動に関しては、非行経験の多い者ほど、全般的に地域活動に対する参加が多く、またそうした地域活動において、年上の人に面倒を見てもらったり、あるいは年下の人々の面倒を見たことが多く、またリーダーの役割を果たしたり、自分の考えを積極的に主張したことがあるにも関わらず、非行経験の多い者は今後地域活動に参加することに積極的でなく、こうした地域活動を通して身につけるべき規範（弱者に対する思いやりや責任感や辛抱強さ等）の修得が十分ではない。非行経験の多い者は、親と一緒に地域活動に参加したことや、参加した地域活動において他の人と協力して物事を成し遂げた経験が少なく、そのために地域活動への参加が非行抑止効果を生まなくなっているのではないかと考えられる。